

# Emerging Leaders Implantable Devices

7月25日(木) 14:30~16:00

Medtronic



## 豊橋ハートセンター 循環器内科 吉本 大祐 (よしもと だいすけ) 先生

2009年 防衛医科大学卒業

2009年 防衛医科大学病院

2011年 陸上自衛隊函館駐屯地医務室 兼 国立病院機構函館病院 循環器内科

2013年 豊橋ハートセンター

### 影響を受けた医師とエピソードについて教えてください。

His Bundle Pacing(以下 HBP)を始める際に初めて臨場的な手技を見せてもらった Dr. Lustgarten が私の師匠です。当時、彼をまねて HBP 手技のセットアップを作り、今もその先生のやり方に影響を受けて手技を実施しています。

### 医師としてやり遂げたいゴールは何ですか？

私が目指すゴールは、患者さんにとっていい医師であり、一流の技術と人間性を兼ね備えた医師となることです。また、後輩やほかの医師に技術を伝えることができる、発信力も併せ持っている医師をいつも目指しています。

### HBP に着目された理由を教えてください。

HBP は、生理的ペーシングのデータが示すとおりであり、感覚的にも良さを感じる治療だと考えています。長期成績で有用性が証明されているわけではないですが、私は生理的ペーシングを積極的に経験し、根拠となるデータを創出していきたくと考えています。HBP を安全に広めていくために、自身の経験や工夫も多くの人に伝えていきたいです。

HBP に携わる医師が皆、同じレベルで治療を進めることができたらと思っています。

私は普段、AV ブロックの症例に対して安全に HBP を実施することを目指して治療しています。今回の講演では、私が経験した AV ブロックの症例を提示しながら、His Bundle への留置に難渋するときの RV ペーシングへの手技切り替えタイミングについて、私の見解とテクニカルな内容を伝えたいと考えています。

### 今後 HBP の将来について教えてください。

HBP は発展途上の段階であるため、成功率を上げるような機械の進歩やテクニックの向上を期待しています。また、将来的には患者さんの状態に適切な治療を選ぶ中で、HBP も選択できることが患者さんの治療選択肢を広げる意味でも重要だと考えています。